夕刊 磐城新聞
七月二十三日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六十五錢（郵稅拾五錢）
廣告料金 普通欄金六十錢 特別欄金九十錢（五號十二字詰一行）（場所指定一行一圓五十錢）
編輯兼發行人 柏木衛
福島縣石城郡平町田町十六番地
發行所 磐城新聞合資會社
振替貯金口座仙臺（一一一四）平局私書函第十二號 電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）

# 六號記事（六）

—墨仙舊作—

白木英尾

今では明治神宮の美術館で壁畫の完成に專念してゐる島田墨仙先生、帝展審査委員とも就つて所謂功成り名遂げ今や不朽の壁畫を遺す人となつたが、この人が何うして磐城あたりの田舍中學に流れこんで居たか一寸面白い話題であるが、平では渡邊何鳴氏前後の人々は親しく墨仙先生の薫陶を享けた筈である。先生が磐中に教鞭を取つてゐた時代に所望されて揮毫したのであらう。この地方には先生の作品が可なり多い。いづれも『墨仙』の落款がある。當時は『巧い繪を描く先生だ』位に思つてゐたのが後年の墨仙畫伯となつて、描いて貰つた人が急に周章て出したといふのも尤もな話たとへば、今まで平氣で使つてゐた扇子、この繪は墨仙先生に描いて貰つたのだといふので桐の筥に秘藏する。萬一扇子一本五圓十圓で賣れないこともないといふ考へから、そんな事は當時ザラにあつた樣だ。

先生は、今では壁畫以外に殆んど筆をとらないさうである。壁畫完成の榮譽を以て生涯を象うする巨匠の奥床しさがうかゞはれて、私は言ひ知れぬ敬虔な氣持に打たれる（私などから先生などとお呼びするのは非常に輕々しく聞えて失禮であるが、磐中に教鞭をとつて居られた事から何かしらそこに先生とお呼びしたくなる心が湧いてくる）

これは或る知名の人だが墨仙先生が磐中時代に描いた畫幅を持つて、それに箱書きをして貰ふべく先生の居邸を訪れた。勿論、昔の數へ子であるから先生も大變喜んで迎へて呉れた。しばらく懷舊の挨拶が取交はされて後『さて先生、實は……』といふ風に先生の磐中時代の作品を出した所、先生は非常に困つたといふ顔をなすつた。

『たしかに私の書いたものだが、君、これは困るよ別なのをやるから、此れは置いて行け』

と言つて、どうしても箱書きを承知しない。いや、別なのは要らない、是非これに欲しいのだといふことで先生との間にしばらく應酬があつて後。

『君がどうしても——と言ふなら仕方ない、墨仙舊作とでもして置こう』

と、澁々『墨仙舊作』と書き入れて苦笑したといふ話がある。このへんの先生の心境を考へると、實に面白い『舊作』と書いた先生の苦衷もさこそと思ひやられるが今になつてまでも、やんちや連の先生いぢめに泣かねばならないのかと、先生も聊か憮然としたといふ事である。

墨仙先生に就いての逸話は拾ひ集めたなら澤山あるだらう。一つ、當時の敎へ子ばかりで先生を中心に何か記念したらどうだらうか敎へ子も今では餘程の年輩になつてゐるだらうが、先生を中心に集つても之はあながち先生をして『墨仙舊作』の心境に陷し入れる樣なことはないと思ふ。（此稿終り）

## 社會の今日

○

石菖やせせらぐ水のほとばしり　王城

端居してさわげる子らの聲聞けば生れし星を數ふるらしか　川崎得次

7月24日　△女宮の位階を定む（明治二）△北樺太占領（同三八）△不戰條約實施（昭和四）△伊太利訪日機記念に機体を學生航空聯盟に寄贈す（同五）△全國中等學校庭球大會開會△ツェッペリン伯號北極探檢飛行に出發（同六）

## 潮聲硯靜抄帳（六月集）22

席題　梅雨

帆柱に帆のつれけり梅雨哉　十里
長梅雨に土間土黑く濕りけり　芳月
梅雨空やかび浮く鉢の油かす　同
長梅雨にきしみ深みし雨戸かな　同
梅雨入りてやたらに伸びし草の丈　松堂
忙しくもひねるや梅雨の粉たばこ　文狂
干飯の色もかはりし梅雨かな　十里

## 磐城歌壇

栄原北斗

○土肥ゆる庭隅畑の馬鈴薯花をひらけり葉いたく繁りて
○庭隅にまきておきたるけしの花か細き莖に花をひらけり
○屋根をうつ雨音ばかり耳に入り本みつめゐる宿直の夜は
○雨やみてくも疾くゆけば青葉山風吹きいでて空晴れんとす

## 時代警語

○分に非るの福、故無きの獲は造物の釣餌にあらずんば即ち人世の機形なり。この處に眼を着くる事高ければ彼の術中に墮ちざるはなし……（菜根譚）

## 萬葉集長歌への憧憬　下

高木直吉

『註』眞神の原—天武天皇山陵地とあれど、喜田博士の天武天皇の皇居のありし所との新說が正しからん。
天つ御門—右の皇居。
神さぶと—さぶはそれらしい振舞。
岩がくります—磐戸にこもらせ給ふこと。
そともの國—大和より北にあたる卽ちそと面の美濃の國。
眞木立つ—檜杉等すぐれた木。
高麗劍—和の枕詞。
和ざんが原—後の關ヶ原らしい。
あもりいまして—天降りいまして。
をす國—食す國。食すが如く御身に受入れ有つ。
鳥が鳴く—東に冠した詞。
ちはやぶる—勢の强い事。
和せ—敵を從へる。
皇子ながら—皇子として。
あともひて—誘ひ率ゐて。
とゝのふる—呼び集める。笛調する。
吹きなせる—鳴らせる。
冬ごもり—春の枕詞。
野毎につきてある火の—春は野を燒く故。
飈かもいまきわたると—飈が吹き卷き渡るかと。いは接頭語。
聞きのかしこく—その音を聞くのが恐ろしく。
笛の繁けく—笛の繁きことは。
大雪の亂れて來れ—大雪の亂れて來れば。
霰消の—消の枕詞。
ゆく鳥—爭ふの枕詞。
あらそふはしに—はしは間
木綿花の—榮ゆの枕詞。
白妙の麻—舍人達の喪服をいふ。
あかねさす—日の枕詞。
日の盡—終日。
ししじもの—いはひふしつつの枕詞。
鶉なす—いはひもとほりのまくら。
さもらひえねば—さもらひかねてと宣長は訓んだ。
いまだ盡きねば—盡きぬにの意。
言さへぐ—百濟の枕、百濟は北葛城郡百濟村大字百濟の邊。『中』はそこを通つて。
あさもよし—きのへ』の枕
すぎんともへや—經過の意に拘泥しないで『散り失せる』『流れ去る』『無くなる』等この場合適切。

—以上、七日十九日稿—

參考文獻
澤瀉久孝、萬葉集選釋、
窪田空穗、日本長歌史、
藤井乙男、國文學史

## 拈華微笑

◇鐵を鎔かす炎熱と闘つて熱球を蹴飛ばす、何等の快心事ぞや

◇高く買ふ方どつちへでも賣れ。要は繭代を取りはぐらぬ事だ

◇一回戰磐中平商捷つの快報に釜中の暑熱を忘れ清風腋下に生ず

◇閨秀俳人を迎へて歡迎句會、心頭を滅却すればの三昧境

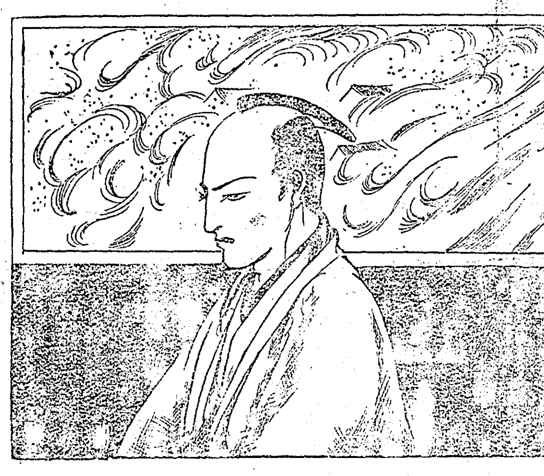
◇臨海學校も結構だが一面救助を受けてる九十名あるを忘る罔れ

○……○

## 講談　お蘭陀お蝶

渡邊默禪作
布施長春畫

（89）



お柳は敷いてあるゴザの上に膝を折つてゝましやかに聽くのであつた、その中にも不審に思つたのはどこからともなく鼻に突き拔ける樣な强烈な香が立つことである、お柳は引火木についてゐる硫黄を思ひ出した

『先づ是を見い』

格之助は行後から重そうな物を持出して前へ置いた、それが方一尺五寸ばかりの鐵製の函で、はめふたになつてゐる、そのふたを取除けると芬と高い惡臭が上つた、中には何やら得体の知れぬ眞黑な影が一杯に詰込んであつた。

同時に氣が付いた舟には藥研やら紙袋やら秤量やらがとり散らしてあつて奥の方には猶同じ樣な鐵の函が幾個も重ねたのが見えた。

今しも落ちかゝる月は舳の方から正面に寒い光線を投げてよもぎの半をほの白く照してゐる。

『それは何でございます…：?』

『煙硝ぢや、强藥ぢやッ』

『おや、道理で……そして如何なさいますので』

お柳は熱心に男の面を見守つた

『外に用ゆべき場所はない今度の旗揚げに大阪市中を微塵に打壞し、燒立てゝ只一擧に灰にしてやる其のための火藥ぢやぞッ!』

『えッ……』

一愕然としてお柳は後へ反りかへつた。

驚くお柳の顔を見て格之助はにやりと凄い笑ひを浮べた。

『何れ其の時期は遠からずして參るであらうが、手配り軍略として豫め定められた事柄は、先頭奉行に仰せつけられた堀伊賀守が追つけ江戸表から繰り込んで參る筈、それをば從來の慣例に依り、古參奉行の跡部山城が案內いたして市中を見廻つた上、天滿の與力組頭朝岡助之丞方に立寄つて休息する、是も古例ぢや、その日こそ此方のつけ目、不意に朝岡の宅に燒打ちをかけ兩奉行を討取つた上に天滿橋を恭らに渡つて、直ちに城へ攻め入る手筈、又一方は難波橋を渡つて市中へ押出し、鴻池善右衛門、三井八郎右衛門、天王寺屋五兵衛、米屋平右衛門など鬼畜に等しい金持共を燒拂つて容捨なく天誅を加へる目算ぢや、石火矢火箭、地雷火あらゆる手段は其の日に用ひられるであらうが、さて先に立つのは强藥、迂濶に是を製法なすに於ては敵の目につき易くそれが爲めに大事が洩れてはならぬに依つて父上には殊の外の御苦心、なまじ手近に住居いたす門弟衆よりはわざと遠い在所の傳七親子をお見立てなされて花火の製法を聊か心得居るを幸ひ、いろ〳〵と秘法をお傳えの上に此の役目を仰せつかつたのぢや自宅にては人に見咎められる恐れがあるので此の川に持舟を浮かべて寒鮒を漁るやうに見せかけ、日夜交代にて人知れず調合いたしたのが此の强藥ぢや、是さへあれば千軍萬馬を得たよりも氣丈夫もう大事成つたも同じことじや、首尾よう參れば傳七親子こそ筆頭第一、拔群の手柄であらう。いやそれが羨ましい』

と語り終つて眉を動かした、盜き立つ五尺の血魁、武者震でも出そうな元氣

此の話を聞いてゐる中にもお柳はいろ〳〵な事を想像して見た、天地も頽るばかりの雄たけび銃音、閃く劍飛ゝ血潮、ばり〳〵と凄まじく燒け落ちる人家、大紅蓮の焔を空に逆立てゝ十里の巷を只一舐に碎きつゝ走る恐ろしの火の魔。

## ラヂオ

仙臺 JOHK
…二十四日（日曜）…

△前九、〇〇A 氣象
△九、一〇A 榮養料理（シン卷玉子榮養肉揚げトマト添）榮養研究所
△九、三〇H 子供の時間 お話（登山と高山植物）赤林賓睡
△一〇、〇〇L 宗教講話（祓と禊とに就て）官幣大社香椎宮宮司緒方稜威雄
△一〇、四〇A 講演（目下の歐洲外交の諸問題）東京帝大敎授法學博士神川彥松
△一一、一〇A 謠曲講座（謠の道しるべ）實演…觀世左近 解說…池內信嘉
△正午 A 時報 氣象 ニュース
△後〇、五〇 六、〇〇B 運動競技（第九回全國高等野球大會準決勝戰試合狀況）雨天順延（甲子園より中繼）
△三、四〇A 氣象
△四、〇〇 ニュース
△六、〇〇C 子供の時間 童謠と唱歌 名古屋廣路小學校兒童
△六、三〇 趣味講座（羽衣傳說）佐々木喜善
△七、〇〇A ニュース 氣象 生繭相場
△七、三〇A 名曲鑑賞（常磐津忍夜孝事寄…將門）解說文學博士笹川臨風
△八、三〇 錦心流琵琶（肉彈烈士）松田靜水
△九、〇〇A 新日本音樂 唄等…久本玄智 尺八…安部香山 同…關野生山 管絃合奏組曲（山の幸）町田嘉章作曲
△九、三〇A 時報 ニュース 氣象 生繭相場

夜間診療
胃腸 內科 十二指腸虫病 專門 內科部
花柳 淋病 梅毒 皮膚病 婦人病 專門 外科部
松村胃腸性病科醫院（平町南町電話一〇七番）

土用丑の日 大賣出し
柳川 一人前 金二十五錢ヨリ
うな丼 金三十五錢
蒲燒 金五十錢 金五十錢ヨリ
右大々勉强出前迅速
◎滋養豐富！！風味美味！
是非一度御試食を……
大蒲燒・鳥料理 壽司・折詰仕出し
魚榮 田町（電話四二四番）

來る二十七日 土用丑の日
牛肉大賣出し
百匁ニ付
ヒレ 全 金六十錢
ロース 全 金五十錢
上肉 全 金三十五錢
並肉 全 金二十錢
品は特に吟味致します。
何卒御用命は—電話六六七番へ！
配達迅速 大塚肉店 平驛前新道通り

吉田眼科病院 平町紺屋町

川魚御料理
大蒲燒（一人前）四十錢
うなぎ丼 二十五錢
どぜう蒲燒（一人前）三十錢
どぜう丼 二十五錢
柳川 十五錢
ヒラキうなぎ 百匁 二十五錢より
ヒラキどぜう 百匁 二十錢より
配達迅速 相馬屋 四丁目川岸通り（電話二六一番）

安くて書きよい

金壹圓以上二十數種
ウエルの金ペンは正十四金゛本邦唯一の專賣特許の合金方法て゛製作（東京府商工奬勵館試驗部試驗濟）目錄呈上
ウエル萬年筆 ライトインキ 代理店
魁文堂 電話三一三番 平町字搔槌小路

海水着・海水帽・浮袋
其他新らしい海水用品が豐富に取揃ひました。すべて嶄新な向な廉價に提供いたします。
パラソルと麥帽 均一特賣
洋傘 1.00 2.70 5.00
麥帽 30錢 50錢 80錢
中野洋品店 平町二丁目〔電53番〕
たばこ賣場新設 可成豐富に取揃へて御用命に應じます。

東京田久保製
堅牢無比丸ゴム輪付
小供自轉車 一圓五十錢ヨリ
大形特等自動車 三圓八十錢ヨリ
二人乘乳母車 八圓五十錢ヨリ
敎育玩具雜貨 問屋 商號 豆屋
森下商店 平町一丁目 電話三九七番

初夏サロンの新裝
店內清楚にして氣持良く
アイスクリーム（十五錢）
タンク入りソーダ水（十五錢）
ドーゾ御用命を……
田町 サロン 電三五二番
（男給見習數名募集）

# 長者議員の候補者は多分金成氏に決定せん
## けふ植田で幹部の懇談會

九月十日行はるる長者議員選擧に當り本縣政友派から植田水力電氣株式會社長金成通氏が出馬するであらう事は、過般來殆ど既定の事實として觀られてゐたが今二十三日郡部會代表山崎與三郎氏、鈴木代議士、山崎前縣議の諸氏が午前十時植電に於て金成氏と會見、安島元代議士、小林元縣議江尻博孝、古川前縣議諸氏も同席し種々懇談する處あつた。前後の形勢から推して夫々形式を經たる上多分出馬する事に決定するものと觀測される

# 磐中は安達を平商は双中を屠る
## 今日の野球大會戰況

縣下中等學校體育大會野球戰は愈々今二十三日郡山市安積中學、麓山、神宮三球場に開始されたが第一回戰の戰績次の如く第二回戰に磐中は喜中對田中の勝者と平商は福商と對戰する事となつた

（神宮）
平商 1 0 0 0 4 0 1 ─ 6
双中 1 2 1 0 0 0 0 ─ 4
福師 2 0 1 0 0 0 0 ─ 3
福商 0 0 2 0 0 9 4 ─ 12

（麓山）
福中 6 3 1 5 A ─ 15
白河 0 0 0 0 1 ─ 1
(CG)

（安積中）
會中 3 0 0 2 0 1 0 ─ 6
相中 0 0 0 0 0 0 1 ─ 1
磐中 1 0 0 4 4 1 ─ 10
安達 0 0 0 0 0 0 ─ 0
(CG)

**平署土用稽古**　例年通り近く開始する事となり今二十三日午後一時から關係者の打合せをなした

# 奉天から
## 交戰三回終に彼等は潰走す
### 好間村出身 山野邊正直君

―お蔭様にて小生儀至極元氣にて軍務に勉め居ります故乍他事御休神の程御願申上候六月十六日シン海線東方柳化附近の匪賊討伐の爲に出動し三回の交戰にて敵を擊退し去る七月二日元氣にて原駐地に歸還致し候、尚歸營當日より奉天城内外の警備を〇〇第〇〇〇隊と交代し我〇隊は再び北滿方面に出動豫定既に〇隊に準備完了待期の姿勢に居り候處本日状況一變し不出動の止むなきに至り近々、城内外の警備に任ずる次第に候、尚詳細は警備先にて可申上候、先は乍簡單暑中御伺ひ迄。敬具　七月五日

小川出身　在奉天同君から草野忠君らも此程懇篤な中元の挨拶あつた

# 夏秋繭買收に備ふべく特設組合切り崩し運動
## 地方養蠶界に爭奪混戰

郡下山間部の夏蠶は目下順調に生育し二齡乃至三齡前後で來月初め上蔟の豫定であり秋蠶は來月一日頃から掃立を開始する見込であるが片倉磐城製糸始め各製糸場では昨年の晩秋蠶から今春蠶にかけ大に特設組合の新設に努め來つた結果現在約半數の養蠶家を統一し尚ほ夏秋蠶を當込み目下引續き増設に努め相當な成績を收めつつあり之の勢ひは近き將來に於て郡下全体に及ぶではないかと觀られるに至つたが之が爲に四倉、植田兩市場を通じて取引する製糸家は非常なる買收難に陷るに至つたので此の機を逸せず全力を擧げて特設組合の切り崩しを開始し成行を注目された居る

# 荷客減少
## 去月中の勿來驛

勿來驛去月中の動態は貨物發送七千二百十八噸、到着四百七十八噸、收入二萬四千四十圓で炭況不振の爲前年同月に比し發送一千七百十二噸、到着百六十二噸、收入六千八十九圓の各減額を示してゐる、尚乘降客は乘者四千十一人、降者四千二十百二人、收入一千七百五十八圓で前年同期に比し之亦不況の結果乘者一千五十人、降者一千三十三人、收入四百八十四圓の各減額を示してゐる

# 豊間全村を擧げて奉仕的の浴客歡迎
## 役場其他各種團体の活躍

豊間村の海水浴場は遠淺にして極めて安全なるに加へ風光亦明媚で遊覽的には辨財天、鹽屋岬燈臺、二見浦等の勝地があり年と共に繁榮しつつあるが本年は特に東京、白河、安積方面より中等學校生徒の來遊申込みが多いので鈴木同村長は目下漁港一部の修築工事中なるも浴場の設備其他浴客の便宜を圖る爲め此程青年團消防組、軍人分會の各幹部と協議を遂げ村内豊間、薄磯、沼之内の三部落海岸に無料脫衣場を設け救護船を常置し大いに浴客の歡迎に努むる事となつたと

**古河對セメント庭球試合**　古河炭鑛庭球部では明二十四日午後一時から同鑛忽滑コートで四倉町磐城セメント部員を迎へて對抗試合を行ふ

# 遂次增大を辿る發送炭の減少率
## 既往二旬の差一萬七千噸

去る十一日より二十日迄の常磐炭山元發送高は
營業用　三二、一五九噸
省用　一三、七二〇
合計　四五、八七九
で前年同期に比し營業用、省用を通じ實に八千七十八噸を、上中旬を通ずると一萬六千八百五十四噸の大激減で逐次激少率を增大しつつある

# 滿洲行
## 藤田中尉
### ―(第二卅信)―

°°°天佑の數々°

(イ)私が其晩大和ホテルの宴會で二次會の取止めになつた事も天佑だと思ひます。

(ロ)我が軍が高い鐵道線路から前進して低い暗い畑地に入りました、目標が隱れたので敵の彈丸はあてづもなく頭の上の方をビュー〳〵飛んで參ります。だのに反して北大營の兵舍には電燈が皎々と光り輝いて居つて目標が手に取る樣に見えました。點燈のまま應戰した支那軍には不利でしたが我軍にとつてはあつらひ向きの天佑でした。

―筆者曰く

(ハ)無線電信所の占據、折柄の電鈴、受話機を耳にした將校の巧みな支那語と其機轉、これ皆天佑ならざるはない。

(ニ)賣られた喧嘩柳條溝爆破の時刻もよし河本中尉の巡察文官屯に於ける虎石臺中隊の夜間演習も天の配したる佑けである、國際聯盟調査團が何と言はふと―天佑は卽ち天佑なり滿洲事變が卒然として勃發した而して世界の視聽は一齊にこれに指向された。

◇遂に國際聯盟とやらの容喙干涉する處となつたのだが土臺支那を完全國家として論じて見たり、日本の自衛權は埒外に置いたり又滿蒙に關する認識が全く缺如して居る連中が自國の利害によつて或は右とし或は左と勝手な熱を吹いて見た處がそれは一片の机上の空論に過ぎないのだのみならずこれは絕對價値となし生命線なりとして眞劍眞面目に考究もし、行動もして居る我日本にとつては甚だ不快な容喙であり

◇橫暴な干涉振りでもある十三對一で破れやうが眞理は飽くまで眞理であり正義は依然として正義である。事變の眞相を見極めやう滿蒙の認識を深めねばならない、と出來上つた變手古なものが卽ち國際聯盟調査團である。その調査團の一行が過般滿洲にやつて來た。團長がリットン卿で軍事調査委員長が米國のマッコイ將軍といふ人、當の島本中佐も川島大尉も現地について實地に說明もし質問にも應じたそうだ。今其一二を物して見やう。

◇『マッコイ』將軍、柳條溝爆破の時刻は何時何分か
『島本中佐』午後十時から十時三十分の間だと思ひます。と言ふのは當夜の滿洲の月の入りは十時三十分でやがて月が落ちやうとして滿洲の夜は一際物靜さを增して居りました。長春から奉天に入る急行列車は午後十時三十二分奉天着ですが折柄爆破された鐵路――八十糎程〃も切れる庖丁で豆腐を切つた樣に片側をもぎ取られた――其路線を列車は辛じて脫線を免れ傾いたまま其場を通過して奉天に着いたのです。これ等前後の事情より推察して私はしつかり判斷するのです。
『マッコイ將軍』もつと正確な時間を言つて貰ひ度い。

# 長谷川女史を迎へ俳話と句作の會
## 廿七日マルトモで 多數參加を歡迎

地方の俳句同好者は閨秀俳人の第一人者として俳誌『水明』を主幹し、句集『龍膽』の著者『零餘子句集』の編者として餘りに有名な長谷川かな女史を聘し、二十七日午後六時から平町マルトモホールに於て俳句大會を開催するが、課題は『睡蓮』二句で當日受付へ差出さるべく、會費三十錢で同好者は勿論、初心の人特に婦人多數の出席を希望する

# 光明の世に背く刑務所常住の男
## 先月の古巣へ再び逆戻り

先月下旬福島刑務所を出所以來六日夏井村藤間坂本某方からリヤカー一臺外五件の窃盜を働き再び刑務所へ逆戻りする事となつた當時住所不定無職田村郡御館村生れ松本宇之助(五四)は今二十三日一件書類と共に送檢されたが同人は過去三十餘年を暗い獄舍で暮して來たと言ふ窃盜、詐欺前科十五犯の強か者でこんな婆婆で食ふや食はずに居るよりは除程樂でさあと空嘯いてゐた、彼は十六才の時前後して兩親に死別し二十一才で窃盜四ケ月の懲役を受けてからは全く自棄に陷り散々身を持ち崩した人間である

# 拔き手を切つて激浪から救ひ出す
## 勇敢な青年の表彰稟請

高久村下高久猜水七猪狩好雄(三)は二十一日午後三時頃同字八幡二一鈴松四男小學校三年生鈴木弘(10)が高久浦海岸で水泳中激浪に呑まれ溺死せんとして居るのを救助し今二十三日鈴木村長から縣へ表彰方を申請した

# 橋から轉落
## 永戸の女兒溺死

永戸村渡戸岩吉娘瀧口ハナ(八)は二十日午前七時頃同村宇宿頭地内好間川上流の橋上から川中に轉落溺死し昨二十二日平署員が檢視した

# 全町二十七區の負擔一萬三千圓

平町役場で調査した全町二十七區の六年度出費合計は

| 種別 | 金額 |
|---|---|
| 土木費 | 七五、一四 |
| 衛生費 | 一、四二七、四六 |
| 警備費 | 二、八三五、六六 |
| 神社費 | 二、三八九、五一 |
| 事務費 | 五七一、一三 |
| 撒水費 | 一、二三三、〇〇 |
| 其他 | 四、七〇九、七二 |
| 合計 | 一三、二六一、六三 |

で之を負擔戸數四千四百三戸に割り當てると一戸平均三圓一錢になつてゐる

# 町の救助を受くる貧困兒約九十名
## 濱行きを羨む哀れさ

平町小學校兒童中貧困の爲町役場の救濟を受け學用品衣服等を支給されてゐるものは約九十名の多數に及び之等は五錢の夏休帳をも購入出來ず他の兒童が海水浴よ、臨海學校よと喜び騷ぐ裡にいとも哀れな姿を見せてゐる

# 金額では赤字
## 驛待合附近の姿

平驛に於ける四月以降昨二十二日迄の遺失物取扱件數は六百一件であるが內半數は遺失主が判明夫々還した、種別は洋和雨傘、帽子、風呂敷、眼鏡、煙草入等で金目のものは好況時代の三分の一にも及ばない狀態であると

# 暑さに氣が弛み遺し物が殖える
## 平署の最近取扱品種

平署に最近屆出た拾得物左の如く暑さに氣が弛んだ證據として他の季節より相當の增加を示してゐる

△鎖付金側懷中時計平町月見町地內で同町渡邊アサノ△五十錢銀貨立町で同町吉田松吉△改良發火器三丁目で南町岡田孝平△五十三錢入蟇口南町で同町高野郁子△二十七錢蟇口神谷村で草野村新妻秋雄△衣類其他の風呂敷包小名濱町で同町木村由松△一圓十九錢入蟇口平驛前で好間村西村ハル子△平驛構內拾得物、絹張洋傘、中折帽子、電燈、メリヤス手袋、英和辭典、鳥打帽子、和傘、夏帽、筆入、小兒帽子、手提袋シース、學帽、書籍、レーンコート、護謨靴、萬年筆、鳥打、エプロン、マント、ズボン

# 月謝の訪問督促

磐中今月謝の未納者は約百名であるが恰も夏休に掛つた事とて給仕が各保護者を訪れる等整理に大童である

。。。。。。小川江筋改修調査　二十五日午前十時から平國体事務所に開催する

。。。。。。傷害男を拘留　昨年八月十二日勿來町大字窪田字白山飲食店きよし方附近で今野三郎と口論し匕首を以て右背部に一週間の傷害を與へた當時住所不定阿部岩三(四七)は今二十三日平區に於て中島裁判長の訊問を受け拘留された

# リヤカーぐるみ
## 甘いの卅圓分を盗まる
### 御難の。。一丁目。。河內屋。。

平町一丁目河內屋商店では昨二十二日午後九時頃軒下から水飴砂糖價格三十圓をリヤカーぐるみ窃取され卽刻平署に訴へ出た

署會議室で開催
月例座談會開催、海水浴期の乘客爭奪をさけ事故防止に努むる事外數件を決議し了つて役員の滿期改選を行ひ左の如く當選した
△會長佐藤新之助、同副本田昌勝△常任幹事坪內淸外幹事二十名

**勿來學務委員改選**　來る二十七日限り任期滿了となるので愈々定員八名の改選に決し近く町會を開き協議決定する筈であると

# 大部分完納
## 通話停止で
### 平局の電話料成績

平局の去月分電話市外通話料は二十日の納期迄に納まつたのは加入者五百九十七名中四百十一名(七割二分)で未納者に對し二十一日午後八時通話停止を行つた處々前後して大部分が納付濟となり結局停止は極めて少數であつた

# 人參奬勵
## 植田農會
### 本場の石濱を模倣

植田町農會岩間人參採取組合の試作地小原は人參の最適地として極めて良質なものが生産されるので昨年來本場の茨城縣石濱に組合員を派し向後の刷新改良に資して大に得る處あり今年は一般に普及の目的で種子採取をなし各方面に販賣する計劃を進めてゐる

# 大野の火事
## 今曉一戸燒失
### 忘れた提灯から

大野村字山小屋村上淸左方から今曉五時出火住家一棟を全燒六時鎭火した損害一千圓、原因は淸左長女はな(一五)假名―が便所に置き忘れた提灯からであると

# 舞踊の夕
## 今夜七時
### ◇第二校で開催

平第二小學校では今二十三日午後七時より既報の如く舞踊の夕を開催する多數保護者の出席で相當賑ふものと豫想されてゐる

# 納凉會
## 判檢事辯護士 一行十四名
### あす磯原へ

平町在住判檢事辯護士一行十四名は明二十四日午前八時平發磯原天妃山に納凉旅行をなすと

。。。。。支部運轉手會　縣自動車協會郡支部運轉手會は昨二十二日午後九時から平

## 平町慶弔錄

△出生
研町一一安齋傳七四女英榮子
白銀町三五菅井廣太四女ヨシヱ

△婚姻
東京市淺草區石濱町二村松英助(三〇)平町村木町二五田爸ハルヨ(二二)
南町三五小賀坂章平(二九)大野村上川原四六北村チヨノ(二六)

△死亡
新川町三一佐々木タカ子(二五)

諸判定應需
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神誠館

舊六月二十一日　日曜　丙戌　友引　平　星宿
七月二十四日

▲一白の人　氣苦勞の絕ゆることなき日百事控ゆるが吉▲二黑の人　難路を越ゆるには足ごしらへが肝心なり病注意▲三碧の人　ふくれ過ぐれば終に破裂する事風船玉の如し▲四綠の人　利に利を加へんと慾張れば却て損失を招く▲五黃の人　德望高く衆人の上に立ちて權威益々加はる▲六白の人　從來の辛勞に報はるるに成功の喜びある日▲七赤の人　氣運佳良にして開店起業發展を來たすべし▲八白の人　十分の結果を望まず八分目にて止れば安全▲九紫の人　活氣加はると共に功績亦大に揚るべき吉日

暑中御伺ひ申上ます
長い間御不自由をかけました。ハシモトヤも皆様の御同情と御後援によりまして新店舗で營業の運びになりました。品物も充分に揃ひました。相變らず御引立の程御願ひ申上ます。
平町田町銀座通り
ハシモトヤ糸店
電話十四番

頓首敬白
酷暑之折柄各位倍々御攝生御專一ニ切望致シマス次ニ土用丑日牛肉賣出ハ特ニ其ノ肉ハ良ク其値ハ安ク此ノ上ナシトノ確信ヲ以テ御來店ノ程御待チ致シマス。
田町大通
三三肉店
電話三三三番

セダン揃ひで！
貸切專門の！
昭和タクシーへ
三四三番